

もち病（ドウダンツツジ類）

若葉の頃，葉表の一部またはほぼ全面がはじめ淡紅色，のちに光沢をもった鮮やかな紅色になる。患部は肉厚で，罹病葉は不規則に変形する。葉裏の患部は，はじめ目立った変化はないが，やがて著しく白粉状を呈する。罹病葉は早期に落葉するため，夏期以降は被害に気づかない。国内外とも，本病の発生報告はないようである。

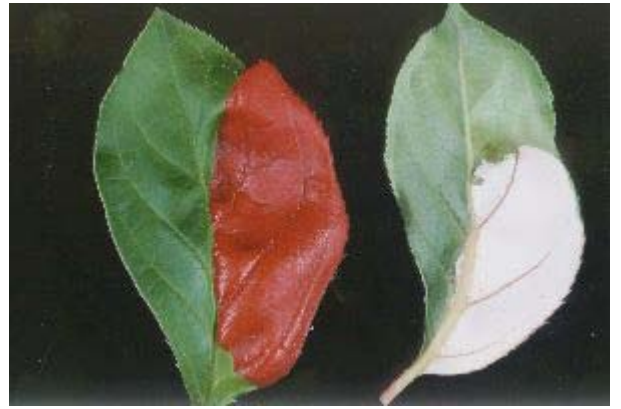
【病原菌】 *Exobasidium* sp.

【罹病樹種】 サラサドウダン

【発生地域】 空知

【防除】

白粉が形成される前に，罹病葉を摘み取って焼却するか，土中に埋める。



サラサドウダンもち病